

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科一類 2年

参加プログラム: Managing Enterprise: Media, Entertainment & Sports

派遣先大学: UCLA Anderson School of Management

卒業・修了後の就職(希望)先: 法曹・民間企業・起業など未定

派遣先大学の概要

文武両道で知られ、全米で突出した人気を誇る西海岸の州立大学。キャンパスの雰囲気も気候も良い。アジアや中南米を中心に留学生が非常に多いことも特徴。

参加した動機

元来より経営学、そしてソーシャルメディアの可能性について関心があり、説明会で配られる書類でこれを見た瞬間ピンときた。やりたいことが決まらず行き詰っていた状況を、一時期外に出て打開したい思いも強かった。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ビザと並行して行う。返金不能の deposit にはじまり授業料・住居確保と手続きは多いが、大学からの指示に従えばそれほど複雑ではない。早めにアメリカでも使えるクレジットカード(VISA, American Express…)を作っておきましょう。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 visa を取得する。まず I-20(留学許可書のようなもの)について、オンライン申請を大学に対し行い、2-3 週間で大学から国際郵便で送られる。そののち、SEVIS fee(説明は割愛します)納入、アメリカの入国管理システムへの登録、米国大使館でのインタビュー(手数料約 2 万円の恐怖)…と極めて煩雑でお金のかかる手続きが続く。ビザが届かない! などと焦ることのないよう、(大使館インタビュー後1週間くらいで普通は届くもの)余裕をもって手続きを進めておきましょう。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

周知のごとく医療費が高いので持病への処置は完璧にしておくべきだろう。歯の治療は済ませてからいった。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学が授業料とセットで加入させる保険に加えて、保険金 1 万円程度の留学保険に加入した。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学を見据えて夏学期は2コマしか履修せず、英語二列はレポートの海外からのメール提出、中国語二列は試験の前倒しを、担当教員に直接お願いし承諾していただいた。単位が来ていることを切に願う。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語を勉強しにいったわけではないので特にしなかった。過去の栄光で TOEFL は 100 点を超えていたが、ネイティブ並みの英語力ではなかった。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

切実に、インスタント味噌汁や煎茶などの日本食を持参することをお勧めしたい。自分が何をしにいくのかはっきりさせてから空港に向かうべきだと思う。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

“In America, teachers do not teach. Students learn.” という教授のお言葉が印象的だった。経営学一般の講義は、学生との対話を含むもので、最新の経営理論やビジネスの動向に関する知見に満ちており、ビジネススクール特有のケーススタディが課された。ソーシャルメディアのビジネスへの応用を学ぶ授業では、実際に企業を一つ選択してそのソーシャルメディアの活用方法について評価しプレゼンするという実践的な機会を得た。

② 学習・研究面でのアドバイス

どんなにくだらない内容であれ発言をする。沈黙は欠席…などと偉いことを言いながら自分も中盤までは全く実践できなかった。こういう心持ちで挑み続けるべきだと思う。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

講義を聞き取ることに苦勞はなかったが、日常会話は最初の頃全く聞き取れなかった。また授業中に発言を求められた際も困惑した。大事なことは自意識をなくすことではないかと思う。外国語の環境では、間違えたら嫌われるのではないかと臆病になりがちだが、ノンネイティブがノーマスで話すことなど期待されていないし、そもそもそこまで他人

への関心はない、という当然の事実を言い聞かせ、挑み続けることが大切だと感じた。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

食事つきの学生寮に宿泊した。40 日間で 20 万円程度。国籍もばらばらな 3 人のルームシェアで、二段ベッドのある「まさに寮」な空間。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

西海岸らしくからっとした気候で、UCLA のある Westwood は学生街といった雰囲気、治安が悪いと実感する機会は幸いなかった。それでも夜に一人で歩くのは危険である。ビーチやダウンタウンやハリウッドには全て片道 1 ドルのバスで行くことができ、とても交通の便は良い。水道水も飲めるがミネラルウォーターが多数派。食事はいかにもアメリカな、バーガーやピザや砂糖だらけのケーキが多く、飽きる。お土産や鉄道などはクレジットカード、それ以外の生活雑費は現金を使用した。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学付近の治安は良いものの、一歩出ると夜には何があるかわからない。幸い医療機関のお世話になることはなかった。朝夕にランニングまたは筋トレを行うことで体を疲れさせ、ぐっすり寝る、という好循環を保てるよう意識した。一日一日目的意識を持って動けば大きな問題はないだろう。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

以下全て概算です。航空費 16 万円・授業料 51 万円・教科書数千円・住居 & 食事 20 万円・ピザなど手数料数万円・現地での生活費数千円・観光費 2 万円ほど

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大 OB・OG 有志の方々より 40 万円の奨学金をいただいた。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

同じコースの学生とスポーツをしたり、UCLA 在校生の集まりに入れてもらうなど他の学生とかかわることを念頭に置いた。とはいえ、UCLA の正規の課外活動に参加させてもらうことは難しい。週末は大学周辺の見どころ、特に最後の週末にはグランドキャニオンまで足を伸ばして、アメリカのできるだけ多くを目に焼き付けようとしてきた。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

UCLA は留学生へのケアが大変手厚く、international center で開かれる英会話のような授業(無料)に応募して、英語を話す機会を増やした。TA の方も大変フレンドリーで、授業の最終発表に向けて相談にのってくれた。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館もジムも使い放題であり、前者は 10 数冊読み、後者は大学構内で洪水が起こるまでほぼ毎日通った。全米屈指のスポーツ校であることもあり、グラウンド含めスポーツへの意識は高い。食堂も多彩で、東南アジアからイタリアンまで様々な国の料理を楽しむことができた(バーガーやピザは常にあったが)。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このままなし崩し的に〇〇学部に進んでよいのだろうか—この時期の 2 年生の多くが抱える悩みを、私も抱えていた。その悩みを解決する上で、この留学は 2 つの点で有意義であったと感じる。まず、経営学という真に興味のある分野を、大量の課題を通じて深く学ぶ機会を得られたこと。これは将来の進路を考える上で大きな助けとなった。さらに、同じ分野に興味を持つ各国の学生に囲まれる、多様な環境を得られたこと。彼らと話す中で自分の考え方が相対化されると感じる事が多々あった。

② 参加後の予定

法学部に進学するが、プログラムで学んだ経営学も独学していきたいと考える。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

「こういうビジネスがしたい」といった具体的なビジョンを描いてから参加した方が得るものは多いと感じる。

その他

① 備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東京大学海外留学情報に掲載されている体験記。「地球の歩き方」などの旅行書籍。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部前期課程 2年

参加プログラム: UCLA Managing Enterprise in Media, Entertainment, and Sports 派遣先大学: UCLA

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: 未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

University of California, Los Angeles(以下、UCLA)は米国カリフォルニア州ロサンゼルス市に本部を置く総合州立大学であり、米国を代表する教育・研究拠点である。また、スポーツの分野でも活動が盛んであり、多くのプロスポーツ選手を輩出している。UCLA Anderson School of Management は国内でもトップクラスのビジネススクールであり、今回私はここでプログラムを受講した。

参加した動機

時間的な余裕があるうちに留学という体験をしておきたかった。また、その体験を踏まえ、今後自身が長期の留学を視野に入れていくかを判断していきたいと考えていた。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

面倒で煩雑な手続きが要求されるため、当然のことではあるがメール等での指示をよく読み、タスクリストを作るなどして計画的に準備を進めていきたい。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

I-20ビザとF-1ビザを取得した。大学からの手続きを指示したメールを受け取り次第、計画的に準備を進めていくべきである。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何も行ってない。常備薬を準備した。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

UCLAの学生として加入するものに加え、AIGの海外旅行保険にも加入した。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

プログラムの時期が東大の試験期間と完全に被るため、履修する授業ごとに担当教員に事情を話し、特別な対応をとってもらわなくてはならなかった。私は一年次に十分な単位数を取得していたため、二年の夏学期には必修の外国語で平均点合格をしさえすれば進振り要件を満たすことができ、担当教員との交渉等にも大きな負担は要しなかった。

⑤ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFLのスコア基準は余裕でクリアしていたが、それでも現地での会話には苦勞した。特に外国人との会話の経験が少ない場合は、TOEFLのスコア等が高かったとしても聞く・話す練習を続けたうえで留学に臨むべきである。

⑥ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

原則として、現地で購入できるものは現地ですらえるべきである。帰りにはお土産等で荷物が倍増するので、スーツケースの半分は空にしておくことが望ましいと思う。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私が受講したプログラムは、午前中の授業ではエンターテインメント産業に重点を置いたビジネス概論、午後の授業ではスポーツビジネスについて扱った。両授業ともゲストスピーカーを招き、エンターテインメントやスポーツの盛んなLAで活躍する人々の話を伺う機会があり、またスポーツビジネスの授業では授業の一環として、LAのプロスポーツチームでインターンシップを行う機会も与えられた。

② 学習・研究面でのアドバイス

私は英語の読み書きに不慣れだったこともあり、課題をこなすには相当の時間がかかった。(期末のレポートを終えたのが帰国直前の深夜2時だったほどである。)しかし、英語面のハードルがあったにもかかわらず内容面でも妥協を許さなかった結果、高い評価が与えられ、自分の中でも得られたものは大きかったように思う。課題の一つ一つにかかる負担やストレスは日本語で行うものよりは当然大きくなるが、そこで妥協せずに頑張してほしい。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

ゲストスピーカーやインターン先の社員など、様々な人の英語を聞く機会があり、中にはその人の英語の聞き取りに苦勞する人もいた。予習や話すテーマについての下調べを徹底しておくことでその負担は軽減されるので、例えば予習等が課されていなかったとしても、主体的に取り組んでいきたい、

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

UCLA の学内寮で生活した。手続きは大学から指定されたものに従うだけであり非常に簡単であった。食事については寮生を対象とした食堂で十分に取ることができた。学内寮で生活したため、大学内の各種施設へのアクセスが非常に楽であった。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

一般に公共交通機関を利用して移動することになると思うが、UCLAがあるWestwoodには地下鉄が走っておらずバスでの移動がメインになる。しかし、バスは時間通りになることはまずないと思ってよい。また、公共交通機関での移動が面倒な場合は Ubar というタクシーのようなサービスもあり、これは重宝するので是非利用していきたい。お金は基本的に全てクレジットカードで支払ったが、バスの運賃、寮のコインランドリー、大学内で使えるカードのデポジット等には現金が必要であり、現金はデビットカードを利用して引き下ろした。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安が悪いとされる地域についての情報をしっかりと得て、暗くなってからそういった地域を歩くことの内容に気を付けた。(UCLAがあるWestwoodは治安のよい地域であり、暗くなっても出歩くことができたのでそこまで心配する必要はなかったが。)

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

合計で80万円ほどであったように思う。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給していない。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

留学生向けの様々なプログラムが大学によって用意されていて、AC&C(American Culture & Conversation)という授業やダウンタウンでの屋外ダンスイベント、ドジャースのゲーム観戦ツアー、ワールドカップ決勝戦のパブリックビューイングなどに参加できた。その他の休日などはルームメイトやその友達と観光地を回ったりもした。また、私は授業でスポーツビジネスを扱っていたこともあり、現地のスポーツビジネスを扱う日本企業とコンタクトを取り、一緒に朝食を取ったり、その後、ガイドブックには載っていないようなスポーツ業界にまつわる場所・イベントに連れて行ってもらったなど、主体的に動くことができて良かったと思う。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生サポート専用の部署・施設があり、何か困ったことがあればそこに行けばよいといわれていたため安心であった。留学生向けの様々なプログラム(LAバスツアーなど)もそこで用意されていた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

スポーツ施設は流石スポーツが盛んな大学ということもあって非常に充実していた。食堂も、アメリカの大学の食堂の料理はおいしくないと言われる中、UCLAは全米でも5本の指に入る食事の美味しさを誇っているとされており、実際に満足できるものであった。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

・多くの学生が将来の職業などについて具体的なイメージや戦略を持っていることに刺激を受け、自身を一つのブランドとしてどのようにして売り出していくべきなのか、ということ意識するようになった。

・そのうえで英語力の欠如が自身のブランドという観点においては必ず大きなマイナスとなってしまいうであろうことを実感し、語学の必要性を強く感じた。

・自分がこれまでいかに日本人の「暗黙の了解」のようなものに頼っていたのかを痛感し、根本的な考え方や感性の違いを肌で感じた。

② 参加後の予定

インターンシップや人脈の形成の重要性を実感し、インターンシップへの応募や様々なイベントへの参加を進めている。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学はする前とした後こそが重要なのではないかと強く感じています。まずは、準備段階でいろいろと忙しいかとは思いますが、出きり限りの準備を主体的に進め、かけた時間やお金に見合うものを得られるように頑張ってください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

③ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部教養学科 地域文化研究分科 4年

参加プログラム: 夏期奨学金つき短期留学プログラム

派遣先大学: アメリカ UCLA

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界: 映像、外資)

派遣先大学の概要

UCLA。アメリカ屈指の優秀な州立大学。日本人の気も高く、キャンパスで日本人を見かけることがしばしばあった。ロスにあることもあり、近くにハリウッドやビーチがある関係で、生徒も非常に良くも悪くも楽観的な人が多いと感じた。大学はもちろんだがロスというアメリカでもっとも大きい都市の1つにいることをいかし、様々な場所に足を運ぶべきだと思う。

参加した動機

AIKOMで交換留学生としてアメリカに留学し、現地の学生とかわらないレベルで勉強できる自信をつけたうえで、今度は実際に自分が将来働きたいと思っている分野に近づくための勉強を更にしたいたいと思っていたところ、奨学金月で留学できる本プログラムのことを知った。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類はすべてアメリカから提出したが、何事も早めに行うことが大切。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

二重国籍保有のため特になし

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に長期の場合は歯科治療をすませておくことをおすすめします。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパンの旅行・留学保険。大変リーズナブルに購入できた。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位交換申請の確認を所属部局にする必要があった。(教養)また、留学届を個別に学部に出す必要があった。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特になし

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日焼け止めと薬と100円で買えるようなサンダルなど

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

UCLAでの、エンターテインメント・映画、ソーシャル・メディア、スポーツ、音楽をテーマにした総合的ビジネス授業と、映画、TVに特化したビジネスマーケティングの授業。予習復習よりは、その授業に来るゲストスピーカーの話記憶することに努めた。

② 学習・研究面でのアドバイス

授業はグループプロジェクトが多いが、アメリカの学生の多くはグループプロジェクトになると自分の仕事を放棄し、他人任せにすることが多い。東大生とは異なる面が多くあるが、そこには自分なりに対応するしかない。また、意見を言うことを恐れずにするように努めるといいと思う。アメリカでは多くの学生が発言するが、実際その多くは東大生徒と比較すると深い考えに基づいてるとはいえない。しかしそのような状況でも何も言わないと始まらないので、がんばって、恐れずに発言をするべきだと思う。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

英語は話すことでしか上達しないと思うので、必死に話すべきだと思う。また、日本にいる時でも多くの洋画やドラマを見ることで、だいぶ勉強にはなると思う。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

シェアハウス。インターネットでUCLAの生徒がよく使うハウスメイト募集サイトで見つけた。宿舎はきれいだが、調理

器はすべて自分で用意しなければいけないので、特に超短期の場合は注意が必要。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
ロス気候は非常に過ごしやすい。ただし日差しがきついで日焼け止めは必須。大学周辺は安全だが、ロスのダウンタウンはあまり治安が良くないので、1人で行くべきではない。食事はスーパーでかうことが多かった。銀行はシティバンクを利用した。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
ロスのダウンタウンは注意をするべき。アメリカではすべて自己責任なので、特に安全な日本のような気持ちで過ごすのは危険。貴重品の管理は徹底するべき。医療機関は大学の医学部付属病院などを利用できる時があるので、大学側に確認するべき。あまり日本人とコンタクトを取ろうとしないほうがよい。時差があるので、気を遣いすぎたりして逆に疲れると思う。もう割り切って連絡は断つくらいの勢いにするのがよいと思う。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費 13 万円ほど、授業料 50 万円ほど、家賃 11 万円、交通費はほぼなし、娯楽費はディズニーランドの 1 万円ほど

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
本プログラムの奨学金と FOTI の奨学金

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末はロスをめいっばい楽しむとして、ロスの名所にはほぼ訪れた。映画をたくさん見た。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
アメリカの大学生も混ざっていたこともあり、留学生の対応がよいかはわからなかった。語学面では、英語に堪能なことが条件のようになっていたので、語学留学をする人は別のプログラムに参加するべきだと思う。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
週末に図書館が開いてないのがよくないと思った。しかしジムや Wi-Fi は完備されていて、非常に良いと思う。ただしアメリカにいくならノートパソコンかパッドは必須だと思う。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムはビジネスを学んだことのない自分にとっては非常に有意義なものになった。私はその直前に 1 年留学していたので他の人と少し事情が異なると思うが、参加を通じて私が行きたい映画業界に行くためには、ロスにすることが非常に大切になることや、誰を知っているかなどが非常に重要であることを痛感した。このプログラムはビジネスのためなので、ビジネスを全く習ったことがない学生の入門としてはとても良いと思う。扱う内容がソーシャルメディアやデジタルなど新しいことばかりで、これからの就活には非常に有利だと思う。しかし、語学留学やアカデミックさを求めるなら別のプログラムにしたほうがよいと思う。

② 参加後の予定
インターンシップをして、自分の行きたい職業につけるように尽力する。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
夏だけだと短いと思うかもしれませんが、自分の視野を広げるいいきっかけになると思います。大学生のうち留学しないと、正直社会人になってからは難しいです。少しでも留学してみたいとか、海外に行って勉強してみたいと思うのなら、絶対に挑戦するべきだと思います。それで本気で勉強したいと思えば、1 年留学するとか、海外の大学院に行くとか、いろいろ自分なりに見えてくると思うので、後悔の無いように挑戦してほしいです。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
おそらく東大に留学している外国人と友達になるのが 1 番よいと思う。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。